

工学研究科 建築学専攻

博士前期課程

教育研究上の目的

建築学専攻の博士前期課程は、「様々な機能と諸技術、そして美とを調整し、それらの最善の総合化を図ることによって、人間の多様な営みにとって使いやすく、安全で快適、かつ感動を呼ぶ持続可能な空間や形態・環境を創造すること」という『建築の目的』を達成できる人材として、先端的知識を要求される問題にも直ちに参加できる技術者、専門家の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本専攻の教育研究上の目的等を踏まえ、工学研究科建築学専攻博士前期課程では、先端的知識を要求される建築の諸分野の問題に、積極的に立ち向かえる専門的技術者の育成を教育の最終目標としています。

これからのグローバル化した国際社会における新しい建築学分野では、益々人と環境との関係をどう築いて行くのが大きなテーマとなります。こうした動きの中で、新しい時代を切り開いていく人材としては、専門的な建築分野の知識だけではなく、多様な興味や関心で育まれる広い知識や教養とともに新しい諸技術を総合化していく能力が必要とされます。また、自らの力を発揮し、社会で自らの役割を担うためには、広く社会と関わることが求められ、そのためには、コミュニケーション能力も必要とされます。こうした自己を表現するための多様な能力の基礎を研究と教育を通して学ぶとともに、修了後も時代の変化に対応していくために、自らを鍛えていく姿勢が必要とされます。

このように本課程では、教育並びに研究を通して、様々な基礎能力を携え、日本そして世界に貢献することのできる専門家として自立できる人材の育成を教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士前期課程では、本専攻のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、修士論文又は特定課題についての研究成果の専攻内規に則った審査及び最終試験に合格と判定された者は、以下に掲げる目標を達成していると判定され、修士(工学)の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

(1) 多化する社会に関する幅広い視野と教養を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

(1) 研究の成果を日本語や英語で発表し、論文としてまとめる能力を身につけている。

(2) 論理的な思考力とプレゼンテーション能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

(1) 建築分野の急速な技術進歩へ適応できる能力を身につけている。

(2) 建築分野の産業的及び学術的観点から重要とされる課題を解決できる研究推進能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士前期課程では、「様々な機能と諸技術、そして美とを調整し、それらの最善の総合化を図ることによって、人間の多様な営みにとって使いやすく、安全で快適、かつ感動を呼ぶ持続可能な空間や形態・環境を創造すること」という『建築の目的』を達成できる人材として、「先端的知識を要求される問題にも直ちに参加できる技術者、専門家を育成」するため、以下に示す方針でカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 教育課程の編成・実施

- (1)持続可能な空間・環境を創造するために、①主として安全で持続可能な空間を創造するための建築構造に関する専門分野、②主として使いやすく感動を呼ぶ持続可能な空間・環境を創造する事や町並み等の建築文化財を後世に伝えるための建築デザインに関する専門分野、③主として快適で持続可能な空間・環境を創造するための建築環境に関する専門分野の中から、各自の専門及び専門以外の関連分野に関する高度の知識を教授します。
- (2)教員の指導の下に、社会的観点及び学術的観点から重要な研究課題に取り組むことで、積極的に社会と関わり合い、様々な機能と諸技術、美とを調整、総合化を主体的に図ることができる能力を育成します。

2.教育の方法と評価

- (1)TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育能力を高める経験を積む機会を用意しています。
- (2)単位制度の実質化を図るため、成績評価を厳格化するとともに成績評価の方法及び基準を明確化しシラバスに記載しています。
- (3)中間審査において、研究の進捗を評価します。
- (4)国内外の学会発表において研究成果を発表することで、学外の社会と関わりながら研究をまとめる能力を涵養します。
- (5)修士論文と、その内容に関する口頭発表を審査することで、修士として必要な能力を身につけているか評価します。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1.大学院教育によって培う能力

本専攻の博士前期課程は、「様々な機能と諸技術、そして美とを調整し、それらの最善の総合化を図ることによって、人間の多様な営みにとって使いやすく、安全で快適、かつ感動を呼ぶ持続可能な空間や形態・環境を創造すること」という『建築の目的』を達成できる人材として、先端的知識を要求される問題にも直ちに参加できる技術者、専門家を育成します。

2.本専攻の求める入学者

- (1)建築計画、建築環境・建築設備、建築法規、建築構造、建築施工の各分野における十分な基礎学力を有する人
- (2)様々な機能と諸技術、そして美とを調整、総合化を主体的に図ることのできる人
- (3)使いやすく、安全で快適、かつ感動を呼ぶ持続可能な空間や形態・環境を創造することのできる人
- (4)研究成果を学会に発表したり、設計競技に応募したり、あるいは町に出て町の人たちと力を合わせて町づくりに参加する等、積極的に社会と関わり合いを持つ意欲のある人
- (5)一級建築士、構造設計一級建築士、設備設計一級建築士、一級施工管理技師、技術士等の資格修得を目指す人

3.大学までの能力に対する評価(選抜方法)

本専攻博士前期課程では、基礎学力の修得度、意欲と熱意をもとに選抜します。

- (1)基礎学力は、建築計画、建築環境・建築設備、建築法規、建築構造、建築施工の各分野、および英語に関し判断します。
- (2)基礎学力の修得度は主として筆記試験を通じ、意欲と熱意は口述試験を通じ、判断します。
- (3)学部での学修成績によっては、筆記試験を免除します。

工学研究科 建築学専攻

博士後期課程

教育研究上の目的

建築学専攻の博士後期課程は、「様々な機能と諸技術、そして美とを調整し、それらの最善の総合化を図ることによって、人間の多様な営みにとって使いやすく、安全で快適、かつ感動を呼ぶ持続可能な空間や形態・環境を創造すること」という『建築の目的』を高度に達成できる人材として、研究者・高度専門技術者の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本専攻の教育研究上の目的等を踏まえ、工学研究科建築学専攻博士後期課程では、先端的知識と技術を要求される建築の諸分野で、率先して新しい建築分野を切り開いていく高度な研究者・専門技術者の育成を教育の最終目標としています。

これからの新しい建築学分野では、益々人と環境との関係をどう築いて行くのかが大きなテーマとなります。こうした動きの中で、新しい時代を切り開いていく人材としては、建築分野の専門知識だけではなく、多様な興味や関心で育まれる広い知識と教養をもとに新しい諸技術を総合化し、応用していく能力が必要とされます。また、自らの力を発揮し社会で自らの役割を担うためには、広く社会と関わることが求められ、そのためには、高度なコミュニケーション能力もプレゼンテーション能力も必要であり、国際化社会にあっては、語学力も必要とされます。こうした自己を表現するための多様な能力は、在学中の研究・教育だけでは足りず、むしろ、修了後も高度な研究者・専門技術者としての立場を維持するために、絶えず自ら研鑽していくという強い姿勢が求められます。

このように本課程では、教育並びに調査・研究を通して、自らを高め続けることで、日本そして世界に貢献できる高度な研究者・専門技術者として自立できる人材の育成を教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士後期課程では、本専攻のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、博士論文についての研究成果の専攻内規に則った審査及び最終試験に合格と判定された者は、以下に掲げる目標を達成していると判定され、博士(工学)の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

(1) 多様化する社会に関する幅広い視野と教養を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

(1) 研究の成果を日本語や英語で発表し、論文としてまとめる能力を身につけている。

(2) 論理的な思考力とプレゼンテーション能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

(1) 建築分野の急速な技術進歩へ適応できる能力を身につけている。

(2) 建築分野の産業的及び学術的観点から重要とされる課題を見出す、これを解決できる研究推進能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士後期課程では、上記の『建築の目的』を達成できる人材として、「研究者・高度専門技術者を育成」するため、以下に示した方針でカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 教育課程の編成・実施

(1) 美しく安全で快適な建築空間の創造・都市や地域のゆたかな生活環境の探求と改善・建築文化の創造と継承等をすすめる人材を育成するのに必要な学術的知識を、①主として安全で持続可能な

空間を創造するための建築構造に関する専門分野、②主として使いやすく感動を呼ぶ持続可能な空間・環境を創造する事や町並み等の建築文化財を後世に伝えるための建築デザインに関する専門分野、③主として快適で持続可能な空間・環境を創造するための建築環境に関する専門分野の中から、各自の専門に関する高度な最先端の学術的知識を教授します。

- (2)自主性を大切にしつつ、教員の助言の下で、様々な機能と諸技術、美とを調整、総合化を主体的に図ることができるよう、社会との結びつきを重視しながら研鑽を積みます。
- (3)研究成果を学会に発表することや、設計競技に応募、あるいは町に出て町の人たちと力を合わせて町づくりに参加し、町並み等の建築文化財を後世に伝える活動をする等、実社会の専門技術者と対等に競り合う経験を持ちます。

2.教育の方法と評価

- (1)TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育能力を高める経験を積む機会を用意しています。
- (2)単位制度の実質化を図るため、成績評価を厳格化するとともに成績評価の方法及び基準を明確化しシラバスに記載しています。
- (3)予備審査において、研究の進捗を評価します。
- (4)国内外の学会発表において研究成果を発表することで、学外の社会と関わりながら、他の研究者と討議する能力を涵養します。
- (5)英語で学術論文を作成することで、研究の成果を日本語だけでなく英語でまとめる能力を涵養します。
- (6)博士論文と、その内容に関する口頭発表を審査することで、博士として必要な能力を身につけているか評価します。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1.大学院教育によって培う能力

建築学専攻の博士後期課程は、「様々な機能と諸技術、そして美とを調整し、それらの最善の総合化を図ることによって、人間の多様な営みにとって使いやすく、安全で快適、かつ感動を呼ぶ持続可能な空間や形態・環境を創造すること」という『建築の目的』を高度に達成できる人材として、研究者・高度専門技術者を育成します。

2.本専攻の求める入学者

- (1)建築計画、建築環境・建築設備、建築法規、建築構造、建築施工の各分野における高度な学力を有する人
- (2)自ら新たな問題を発掘し、それを解決する意欲を持つ人
- (3)研究者ならびに高度専門技術者として建築の各専門分野で活躍することを目指す人

3.博士前期課程までの能力に対する評価(選抜方法)

本専攻博士後期課程では、高度な専門学力の修得度、意欲と熱意をもとに選抜します。

- (1)高度な専門学力は、修士論文と専修科目を中心に、口述試験を通じ判断します。熱意と意欲は、同様に口述試験を通じ判断します。
- (2)語学力は、英語の筆記試験を通じ判断します。